

笑顔が春を呼ぶ 勝山左義長まつり

2月22日-23日 開催

300年以上続く伝統ある勝山左義長まつりが、今年も盛大に開催されました。
週初めの寒波により雪が降り積もる厳しい寒さの中でしたが、各地区の櫓の前には笑顔で浮き太鼓を見学する観光客の姿がありました。

上郡区の合図で まつりがスタート

勝山左義長まつりの開始を知らせる一番太鼓。今年を上郡区の櫓が務め、会場には大勢の見物客が集まりました。

今年が一番太鼓を担ったのは、久保陽さんと晴さん姉妹と一番太鼓の曲を作曲した上坂優さん（和太鼓集団「O・T・A・I・K O座明神座長」です。

午後1時に息の合った一番太鼓の音が街中に響き渡ると、各地区の櫓でも次々におはやしがスタート。街中は一気に左義長色に染まっていきました。

一番太鼓を務めた陽さんは「貴重な経験をさせてもらえてとても光栄でした」と話し、妹の晴さんは「大勢の前で父も経験した一番太鼓を姉とできて嬉しかったです。楽しく叩けました。」と久保さん姉妹は笑顔を見せていました。



企業ボランティア
市内外から多くのお客さんが来て盛り上がると思います。



越前信用金庫の皆さん

初めて来ました。伝統が息づくとても素晴らしい祭りですね！



(右) 昆布屋さん(越前市から)

10年以上前から来ています。これを見ないと春が来ないです！



(左) 村田さん、(右) 加藤さん(埼玉県から)

伝統や地元の方々の優しさが感じられる素敵なお祭りです！

県外から

地域の方々が親しみやすく、とても楽しかったです。



パプアニューギニアの皆さん

子どもたちの浮き太鼓が印象的で、お気に入りになりました。

海外から

市内の人はもちろん、市外や海外の方も魅了する勝山左義長まつり。
今年の左義長まつりには、2日間で延べ7万人が来場しました。櫓の見物、浮き太鼓の体験、スタンブラリーなど思い思いにまつりを楽しんでいました。

2日間で7万人が
まつりを楽しむ

